



特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986年以来活動をすすめてきたすぎの子共同保育所の保育実践をベースに、新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと2005年6月24日に設立認証されたNPO法人です。

おひさま通信は、会員や地域の方々を結ぶ機関誌として、おひさまの諸行事の案内や報告、すぎの子共同保育所の子どもたちの様子などを掲載しています。

園開放事業報告

草木染ワークショップ

『自然がつくる色で染めよう』

平成26年10月18日(土)在園保護者で染色家の123[HiFuMi] 尾形 誠さんを講師に迎え、草木染のワークショップを行いました。

『草木染めは、身の周りにある材料を使って手軽に染めることができます。媒染液を通すと化学反応を起こし思いがけない色になる瞬間を子どもたちにも体験してほしい。』と、尾形講師。今回は、どこの家庭にもある『玉ねぎの皮』を使って染めることになりました。

当日は、25組の親子が、ストール、ハンダナ、持ち込みのTシャツと思い思いの染めるものを手に集まりました。尾形講師が持ってきてくださった見本を見ながら、割りばしや輪ゴムを使いデザインを決めていきます。模様を決めたらいよいよ染色です。

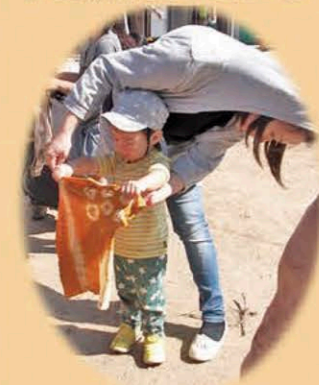
媒染の種類で色が変化するのを楽しんでほしいと今回はミョウバンと鉄の2種類が準備されました。同じ玉ねぎの皮からどんな色に変化するかわくわくしながら待ちます。染色の待ち時間には

尾形講師による染物クイズです。びわ、茜、よもぎ、さくらんぼ、身近な植物で子どもたちが良く知っている名前が出てきました。化学繊維で染められた色とは違う柔らかい色や、作品ごとに工夫された模様にも感心しきりでした。

さて、いよいよ染めていた布を水で洗い、絞りを取る作業になりました。大人も子どももわくわくする瞬間です。世界に1つしかない自分だけのデザインを大きく広げ、みんなに見せてくれます。「きれい!」「こんな模様になるんや。」「藍染をさらに染めたら緑になるんやな。」など即席展示会にどの人も興味津々、満面の笑顔がありました。

尾形講師からは、「みなさんがこんなに染色に興味深く楽しんでくれることに驚きました。染色家として新しい発見になりました。とてもうれしかったです。」という言葉頂きました。参加者からは来年もぜひ企画してほしい。また染めたい。という感想が多数でした。

毎日の子育ては大変なこともあります。こんな風に大人も子どもと一緒に楽しい時間を過ごせることは子育ての宝物ではないでしょうか。おひさまでは、園開放事業として親子で楽しめる企画をたくさん用意しています。私たちと一緒に子育てをしましょう。ぜひご参加ください。



うれしいお知らせ!

すぎの子共同保育所が、認可園になります。

このたび、政府の「子ども・子育て新制度」の実施により、わたしたちには難しいと思われていた認可化の機会を得ました。現在、市の援助を得ながら準備を始めています。当保育所は、保育内容についても保育施設についても認可園としてふさわしいと市も認めてくださっています。

しかしながらやはり認可化は簡単ではなく、まだまだたくさんの課題があります。

- ・認可化のためには、保育所運営所要額として、1000万円+年間経費の1/12のお金が必要です。それを、2015年9月までに集めなくてはなりません。
- ・保育定員が60人となり、保育士も多く必要となり、保育士を確保しなくてはなりません。また、そのためには職員給与の引き上げも必要です。
- ・職員給与引き上げのためには、園児の募集も不可欠です。



そこでみなさんへのお願いです。

**大変な時とは思いますが、ぜひともご寄付をお願いいたします。
お近くに保育士免許を持たれている方はいませんか?ご紹介ください。
園児を募集しています。ぜひ当保育所をご紹介ください。**

すぎの子共同保育所は、たくさんの皆さんの支えによって今まで存続発展してきました。

大変厳しいとは思いますが、ぜひとももう一度すぎの子共同保育所にご支援を頂きますよう、よろしく願いいたします。

みなさんの力でおひさまの活動を支えてください

会員募集

子育てが楽しくなる、子どもの目がいきいきと輝く活動に取り組みます。行事に参加できる、できないに関わらずおひさまを応援したいという方など、入会をお待ちしております。

【年会費】	★正会員：5000円	★賛助会員：一口1000円
【会員特典】	☆総会決議権	☆おひさま通信配布
	☆イベント割引 (例：園開放通常参加費大人300円⇒100円)	

寄付のお願い

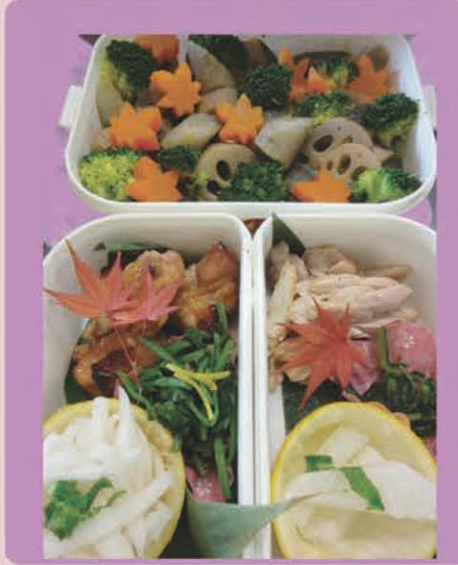
随時寄付をお受けしております。

【会費、寄付振込口座および振込名義】
郵便振替口座 01610-2-93045
口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場



食べたい意欲に繋がる『楽しい』という魔法のちから

11月の誕生会で季節野菜を使った秋のお弁当作りをしました。2歳児から4歳児は家からお弁当箱を持ってきて、5歳児は自分たちで折箱を作り、子どもたちが思い思いにおかずを詰めました。入っているおかずは同じですが、盛り付けは全く違う個性たっぷりのお弁当ができました。



0, 1歳児

給食室が1つのお弁当箱におかずを詰めて、みんなで分けて食べました。蓋を開けた瞬間に身を乗り出して「わあ〜い!! おいしそう!!」「こっちはやくあけて! あけて!」再び蓋を開けると「わあ〜い!! おいしそう!!」

下準備に煮物・お浸し・蕪の酢の物は給食室でカップに入れました。自分のお弁当のどこに何をを入れるかは、自分で決めました。紅葉や椿の葉を使うか使わないかも子ども達に任せました。ラップを使っておにぎりも作りました。



2歳児



葉っぱがおかずの上に・・・

「葉っぱでおかず隠れちゃうよ?」と聞くと、「おべんとうのかさだからいいの」

「はっぱはぜったいつかわない!」などなど。こだわりがいっぱいありました。

いつもやさいが苦手な子は、自分が作ったお弁当に入っている野菜を食べる事ができました。



お品書き

- 塩おむすび
- 鶏肉の照り焼き
- 野菜の煮物
かぼちゅ・紅葉人参
れん根・ブロッコリー
- ほうれん草のお浸し
- 蕪の酢の物
- 豆腐と三つ葉の味噌汁

子どもたちが空っぽのお弁当箱に盛り付けを考えながら詰めました。「こうなか? どうしよう?」と言いながらすぐに始める子や、空っぽのお弁当箱を見つめて全く動かない子もいました。しばらくして、あっと言う間にできあがり!! 頭の中でどこに何を入れようかと考えていたそうです。

そして、みんな揃っていただきます! 「おいしい!」「おべんとうって大変やな」「おべんとうつくっている おかあさんってすごいなあ」「こんどのおべんとうびは じぶんでつくってみよう!」

子ども同士で話をしていました。



3, 4歳児



子どもたちが自分で作ったお折箱に盛り付けました。お弁当箱とは雰囲気かわり最初は「にもものむすかしいな」など言いながら盛り付けをしていた子どもたちも、次第に無言に・・・「できた! りょうりやさんのおべんとうみたい」「はやくたべたいなあ」楽しい時間はあっと言う間でした。

5歳児

どんな折り詰め弁当ができるかな



器が変わると、お箸の使い方が更に上品に・・・

子ども達は、食事づくり(野菜の皮むき)や給食の準備(食器の準備)に関わるのが大好きです。いろいろな事に興味・関心が向けられる時期に集団(家族)の一人として生活体験を繰り返して満足感や達成感を体験して少しずつ人としての食べ方や生活習慣を身につけていく事を大切にしています。子どもの行動が習慣化するためには、『興味をもつ・繰り返す・自分からしようとする・身につく』といった順序があり日々の積み重ねと大人の努力と根気が必要ですね。また、食べ物の好みは生まれつき決まっているわけではなく、生まれてから今までに何をどれだけたくさんの味を経験し、脳に食べ物の情報を蓄積してきたかで決まります。経験した味の記憶が多くても嫌な経験(無理やり食べさせられたなど)と結びついていると、脳はその時食べていた物を『おいしい』と判断しません。『おいしい』につながる食の経験とは、『自分と関わりがあること・楽しいこと』です。自分で栽培・収穫・調理や買い物、遠足でのお弁当。食事の際の‘おいしいね’という言葉や楽しい会話、盛り付けも大切です。一生のうちで嗜好(特に味覚)が最も発達する時期は乳幼児から学童期にかけてです。だからこそ、この時期にたくさんの食べ物の味や匂いに出会い記憶をして、好きな食べ物の幅が広がって欲しいと思っています。